



日本ボーイスカウト川崎地区協議会 川崎スカウトクラブ

キャンプ特集

炊事とキャンプ

キャンプに行きたくない

思い出のキャンプ飯

思い出のキャンプ

目次

1	初めての野外宿泊	4
2	ジャンボリー物語	4, 5
2, 3	多摩川再発見	6, 7
3, 4	活動報告・編集後記	7, 8

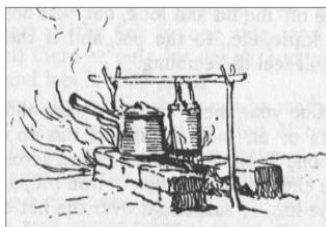
[炊事とキャンプ]

稲葉 正明

“イギリス料理といわれるものはまずい”。と思う人は多いようです。ところが、Baden powell 卿 (以下BP 卿) はスカウティングフォアボーイズに次のような料理の話を書いています。

“新米 (Tenderfoot) の頃に私がしたような真似はしないほしい。私が料理をする番だったので、夕食に変化をつけようと思ってスープを出した。豆の粉があったので、水で溶いて煮て、豆のスープにした。だが、出汁や肉汁は一切入れなかった。それが大切なことなのか、あるいは、すぐに分ってしまうこと

なのかを知らなかったからだ。だが仲間のメンバーはすぐに気づいてしまい、私の作った美しいスープを「ウエット・



挿絵：スカウティングフォアボーイズより

ピーズ・プディング」と呼んで、私に無理やり食べさせたのだ。私は二度と同じ間違いをしなかった。”

私もキャンプ料理では失敗したことがあります。有難い思い出になっています。それは、中学2年の時に参加したグリーンバー訓練キャンプで朝食の炊事当番をした時でした。味噌汁の具に入れる人参の皮をしっかりと剥いていなかったのです。ご飯が炊きあがり、器を並べて食べ始めると、周りのメンバーが皮が残っている人参を箸

でつまむような仕草を始めたのです。その時に、馬場隊長が朗らかな声で“美味しいぞ！”と言。おかげで、その場は無事におさまりました。キャンプ地は、山梨県西八代郡にある四尾連湖 (しびれこ：写真下) でした。4月末、満開の桜が湖畔に映えていました。標高は850m、周囲約1,000mの湖で、湖名は足を入れるとしびれるほどの冷たさに由来しています。

四尾連湖までは、身延線の市川本町駅から3時間ほどの徒歩行程でしたが、馬場隊長は土曜日の終日勤務を終えてから、一人、現在の南アルプス市の夜景を眼下に見ながら山道を登ってこられました。そして、到着した翌朝、“美味しいぞ！”と言っていたいたのです。

BP卿の話は兵役に就いた頃のことではないかと思えます。古参兵にいじめられたのかも知れません。私は有難いことに馬場隊長の一言に助けられました。将来のリーダーになるための励みだったのではないかと、思うようになったのはずっと後のことです。いろいろな情報がパソコンや携帯電話で入手できるようになりましたが、食事の味をネットで伝えることはできません。沢山のキャンプの思い出が感謝の気持ちで装丁されたアルバムになって残っています。

注：BP卿の話は、第27版(1952年版)のスカウティングフォアボーイズに依ります。



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E5%B0%B%E9%80%A3%E6%B9%96>

[キャンプに行きたくない!]

井村 修治

ボーイ時代の夏のキャンプ、定かでないが中学一年の夏のキャンプだったかな? 実は参加したくなかったんです。割と頑張っていたボーイスカウト活動に飽きが来たのだろうか? いやいや、さにあらず! 一種のやり遂げ症候群のようなものと僕は勝手に解釈しているが、往々にして、一生懸命の内容でも急に熱が冷めちゃう事がある僕なんです。もちろんBSに限ったことでなく、今考えると、マラリア感染症のおこりのように当然のごとくに発生し、しかも繰り返す、いつものパターンが出たんでしょう。何かの目標に達したとき、何らかの解決策を見出した時などに特に起こるから、二級章取得、菊章に必要な水泳章・救急章など少年技能章の一举取得、ジャンボリー参加、ジャンボリー参加時のチョットした恨みなどが呼び水だったんでしょうか?

当時、凝っていた5球(真空管3球)スーパーラジオを完成させたかったからかも知れません。音が鳴らなかったもので、原因追及中だったのです。

今これを書きながら、これらすべての思い出がそれこそ走馬灯のように、幻灯機を見るように、僕を楽しませてくれています。

ところでチョットしたジャンボリーの恨みとはこんな他愛もないことなんです。

その日の朝、みんなで解体した鶏肉を、僕が地区本部奉仕でない間に、みんなで食べちゃたと誤解したんです。

今日の夕食は焼き鳥と思って楽しみに奉仕先からキャンプ地に戻ってきたのに、鳥のとの字も夕食メニューにもなかったんです。

みんなで、その場で食べちゃったんだ!

長いキャンプでは食事に固執かするか、さらに悔しかった、ほんとに!

ふたを開ければなんて言う事もない、次の日に行われた、ミンダナオ:サンボアング米軍基地スカウトとの相互訪問の接待用でした、という誤解話です。

でも結局というか、やはり僕は鶏肉を口にできませんでした。食べたのは接待チームです。

米軍スカウト隊訪問チームの僕は、僕で、貴重な鶏卵、スクランブルエッグを彼らのサイトでたらふく食べてい

ます。

話を戻します。不参加を明言したキャンプにみんなが出発した、その夜のことで、尊敬している病院勤務の高山隊長から電話をもらいました。「僕も遅れて明日キャンプに行くんだ、一緒に行くか?」。「大人は上手いよなー!」と思いましたが、行きの電車は隊長を独り占めにして、それこそ沢山、沢山、質問したり、話すことができました。

キャンプでは優秀スカウトに選ばれて、エールを頂き、次長に推薦されました。途中参加で、非常に疲れる最大の山場、設営活動をさぼったから、その分元気だったんです。

もちろんその当時から、自分でもずるいなと思っていた、優秀スカウト賞でした。リーダー達の作為かも知れませんが、きつとそうですね! でも、次長推薦は上進する班長会議の推薦ですから、やはり嬉しかったです。



[思い出のキャンプ飯]

小川 芳郎

若き頃、奥多摩へ川崎5団グリーンバースカウト達とハイキングに行った。この時には百木さん、百木さん弟、小川の弟、後に太陽幼稚園園長となる井上、他団の指導者となる篠崎も参加していてこの写真にいる。



昼時になり河原の橋の脇で炊飯をし、河原の石を焼き、その上で携行しても腐りにくい味噌漬けの肉を焼いていた。当時としては珍しく日原鍾乳洞を見学に来ていた外国人の婦人が匂いを嗅いで橋の上から「おいしそうですね」と声を掛けてきたことがあった。

そのことが思い出され味噌を使った「キャンプ飯」2種を自宅で作ってみた。旬の鯖(サワラ)をキャンプにも携行できるようにジップロックに入れ、石野の西京白味噌に2日間漬けてから、直径16cmの小型フライパンで焦がさないように弱火でじっくりと焼いた。焦げ味噌が少しついた鯖は、期待通りの味に仕上がっていて、風雪と春雷が過ぎ去った日の夕食をほっこりさせた。また、昨今私は岡崎城から八丁の距離にあるカクキュウの八丁味噌が好みである。当主の早川家の煮味噌を知りキャンプ飯おかずとして1人分作ってみた。中型メスティン飯盒に水50ccを入れて、沸騰させる。そこへ八丁味噌30gを入れて、よく溶かす。溶いた中へ三温糖8g、鰹節パック1袋4.5g、長ねぎ25gを加えて混ぜる。

熱くなった味噌の真ん中に窪みをあけて卵1個を落とし入れたら黄身が固まらないうちに火から降ろす。

固形燃料を使い、小型メスティン飯盒で炊いたご飯の上に煮味噌をかけ、熱々のうちに黄身を溶きながら食べて、至福の時を得た。



“春雷や同胞(はらから)思はゆキャンプ飯”

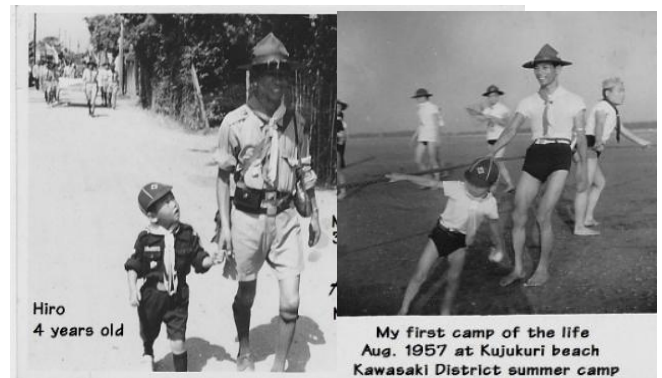
小川 虚舟 作

【思い出のキャンプ】

長谷川 博之

私のキャンプデビューは4歳の時で1957年(昭和32年)8月に開催された「川崎地区夏の村 九十九里浜」

でした。記憶は写真からだけのものでしかありませんが父親は本当にうれしかったのだと思います。そして僕のユニフォームは母親の手作りでした。



記憶に残り始めたキャンプは翌年の茅ヶ崎海岸で開催された、1958年8月の「第5回神奈川連盟合同夜営」でした。このキャンプでは、父がズボンのベルトに差し込んで使える懐中電灯を買ってくれて、これが嬉しくて大切に小学校の頃は持って歩いていました。

僕のキャンプはこんな具合に始まりました……。



初めての懐中電灯

さて、思い出のキャンプでも苦しいキャンプというものには誰でもあるものですが……。私がBS隊長だった1985年(昭和60年)頃だったと思いますが、野外料理でオーブンをを使ってピザやパンを焼くというのに凝ったことがありました。スカウトを連れて奥多摩の鳩ノ巣溪谷から御岳山を経由して古里に出る一泊キャンプの朝食でパンを作るという挑戦をしたことがありました。その結果、時間切れで発酵途中の生地を焼いて食べて出発することに。ルートも長いし意外と峻しいし、さらに歩きながら出来損ないのパンが発酵してきてお腹はパンパ

ンに、気持ち悪いやら苦しいやら……。これは実に苦しいキャンプになったと今でも仲間では話題になることがたびたび。この仲間には渡部幹事長もいるとかいいとか……。 (完)

追記：お腹が苦しかった奥多摩のパン、忘れもしません。この経験を近江さんに話をして大笑いされました。苦しく楽しかった思い出の一つです。(渡部)

【初めての野外宿泊】

渡部 公

私が生まれたのは現在の大田区だが4歳で父親の実家の近くの、山形県南置賜郡三沢村大字築沢大台原(現、米沢市大字築沢)に疎開をした。この集落に小中学校があり校庭や野球場があったため、平坦な場所に住宅が道路沿いに13軒あった。小中学生の子供は男女合わせて20人程いたが、男の子が多く遊びの殆どは校庭で三角ベースやかくれんぼをしていた。小学校高学年になると働き手になり家の手伝いをやらされるようになり、我家では家の周りに自給自足の畑があったため、母親を手伝いながら野菜作りをした。

父親の実家とは2km程離れていたが農業と林業が稼業だったため、学校が休みになると手伝いに行っていた。

中学生になってからは決まった仕事があり毎週土・日は一晩泊りで行っていた。その仕事は馬小屋の掃除であった。農耕用に2頭の馬を飼っていたため、馬小屋の敷き藁の交換で、敷き藁を全て出して床を水洗いしてから新しい藁に入れ替えるのである。1歳下の義弟と二人で半日かかってやった。それが終わると午後も何かの仕事を手伝い、夕方家に帰って来るパターンになっていた。

さて、話を本題に戻そう。夏は近くの「大樽川」(山形県内を縦断する最上川の支流になる)で水泳や魚取りをして遊んだ。魚は清流にいる「カジカ」で“水鏡”と言っていた用具で水底を見てモリで突き刺すのだ。多い時は20匹以上取って、母親に味噌で煮込んでもらい食べた。

この川で「子供が8月7日早朝に川で泳ぐと病気をしない」と言い伝えがあり「七日浴び」と言っていた。

集落ごとに中学3年生をリーダーにして前日から河原に小屋を作り1泊して早朝に水浴びをするのが習わしであった。河原の岸に小屋掛けをするのだが、丸太の骨組み

は大人がやって呉れて、屋根や周りは“かや”を刈ってきて自分たちで作る。夕食作りは女子の仕事で、米や食材はそれぞれ自宅から持ち寄ってきていた。

私が初めて参加したのは小学4年生の時で長姉に連れていってもらった。確か12、3名程いたと思う。

新米は薪拾い専門で周りの枯れ木を拾ったり、流木などを集めてきた。下は“むしろ”を敷き、ごろ寝だった。

翌朝、早起きして皆で水浴びをして、朝ご飯は食べないで家に帰ってきた。子供の頃にボーイスカウトの経験もない私には、初めての野外宿泊経験でとても嬉しかった事を覚えている。先日、次姉にこの話をしたら、父親の実家の方の組に入り「七日浴び」に参加したと言っていた。

翌年も楽しみにしていたが、上流で“赤痢が発生した”ために水泳が禁止になり、ただ一度の参加で終わってしまった。

[ジャンボリー物語]

『第15回日本ジャンボリー』

神奈川第1隊長 荻原 泉



川崎第21団のスカウトハウスの隅にあった段ボール箱の中に、自分より前にボーイ隊長になられた先輩が山中野営場でボーイ隊の研修所に参加した時の班旗が

見つかりました。

その先輩が班長で班旗を記念に持ち帰ったとの事でした。勿論、班旗には班員全員のサインが書かれておりました。私はそのサインの中に見慣れた名前を見つけたので、直ぐに先輩に確認したら、当の本人も知らなかった様でした。なんと「野口聡一」さんのサインがありました。

当時は東京大学大学院生でしたが、所長は誰が東京大学の学生かは参加者に知らせなかったとのことでした。

今となっては先輩の宝物となりました。

改めて班について考えた場面でした。スカウト活動の活動単位としての班は全てにおいてスカウト年代の子供達と切っても切れない制度であり、現代のように少子化の中でのスカウト活動では、指導者が一番悩んでいると

思います。

その中で川崎地区白梅隊や県キャンポリー、世界ジャンポリーは本当の意味での班活動ができるため、大変重要になってきていると思います。

15NJでは参加スカウトに本来の班活動を思いっきり楽しんでもらう事に重点を置きました。

隊長の思い入れの班旗は、事前訓練での班対抗ゲームや班活動の様々な場面での評価から優秀班を選んで、その都度班旗の部品をゲットできるように仕掛けました。

ジャンポリー本大会までには、すべての班で班旗が完成できるように、リーダー会議で打ち合わせました。

皇帝ペンギン班・カワセミ班・鳳凰班・カラス班、中でも21団BS副長にお願いした皇帝ペンギンとカワセミの竿頭はとても素晴らしく、新聞社が取材に来ました。

事前訓練キャンプの前にGB訓練を行い、班集会の大切さを強調し、多くの班員が集まれることを前提に班集会を開かないと班活動が機能しないことを伝えました。

GB訓練・班集会・訓練キャンプを繰り返して徐々に仲間意識が芽生えてくるようにしました。

班旗は木綿の白い布切れから始まり、布切れに通す横棒、横棒を縛る綿ロープ、長さ1.5mの丸棒、丸棒に塗るニス、竿頭の台座、最後に竿頭で班旗の完成です。

事前訓練中に6回優秀賞を取らないとその班の班旗は

完成しません。優秀賞の取れない班は何度も悔しい思っていますから皆で集まって、今度はこうしよう、あーしようと真剣に話し合っていました。

班集会では相手の意見を聴くことの大事さ、自分の考えも時には変えなければ班の中のまとまりが無くなってしまう事などを何度も経験したようです。

以下、スカウトの感想文の中で繰り返し出てきたフレーズを列挙します。

みんなで過ごした・いろんな人と交流が出来た・9日間一緒に生活出来たこと本当に嬉しかった・神奈川一隊だったから・交流で友達が出来た・いろんな体験・これから生かしたい・いい体験が出来て良かった・長い間行動を共にした仲間たち・新鮮で貴重な体験・大変でしたがそれでも良い思い出・仲間・また会いたい・班の全員での協力は大切だと改めて学びなおした・感謝の心を忘れずに・ビックリするほど面白かった・たくさんの友達が出来た・言われる前に行動が出来るようになった・両親に褒められて嬉しかった・友情と協力という二つの大切さを知った上手になっていき、すごく嬉しかった・仲良くプログラムが出来て楽しかった・楽しく盛り上がる事が出来ました。



[多摩川・再発見]

谷本 通安

KSC会員で多摩川に架かる橋を源流から河口まで2年余り掛けて調査し、平成25(2013)年に発行した[橋から端まで]当時110橋が、現在は「多摩川スカイブリッジ」も架かり、更にもう1橋工事中である。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも元の水に非ず」と鴨長明の「方丈記」にあるように10年経過を契機に流れを見つめ直す。

多摩川の源流は、奥秩父の埼玉県秩父市と山梨県甲州市の境にある標高1953mの笠取山から全長138kmを流れ、下流は東京都と神奈川県の間である。

作場平から歩くと東京都水道局が整備した「水源ふれあいのみち・源流のみち」が山頂までで、川の源流は少し下がった所(山頂に降った雨水が地下にしみ込み、少し下がった所で地表に出てくる)最初の水が地上に落ちる所を「分水界」(雨水の運命を決定する場所)といい笠取山にあり「分水嶺」(山にあり二つ以上に分かれる場所)となる。尾根の斜面の丘に三角柱の石碑があり「小さな分水嶺」とこの地点は秩父市、山梨市、甲州市の3市の境界で秩父市側に落ちた雨水は荒川へ、山梨市側は笛吹川(富士川支流)へ、甲州市側は多摩川へと分れる。



南側斜面に「水干・1865m」があり崖上に「水干神社」の祠(源泉と定めたのは東京市6代目市長 田尻稻次郎で羽村神社奥の院として)が、小さな水溜まりから一滴、また一滴と滴り落ちている。それは岸壁からしみ出して草の葉を伝って落ちている多摩川の最初の水である。

水干(始点)で産声を上げた多摩川は「水干沢」を流れ一人前の川「一ノ瀬川」(多摩川の上流の始まり)やがて大菩薩峠からの柳沢川や泉水谷(いずみだに)と合流して大きくなって「丹波川」(たばがわ)に。合流点の近く銚

子滝「おいらん淵」、更に少し下ると牛金淵(うしがねうち)(峡谷難所)。標高700m程の丹波山村まで下ってくると川幅は50m程になり526mの奥多摩湖(正式名称は「小河内貯水池」人工湖)に入る。



奥多摩湖は昭和32(1957)年、当時世界最大規模の貯水池で完成までに実に30年以上も掛かる、東京都の水源としての役割を果し、現在も都民が使う水の20%を提供しており、喝水時の「水がめ」を担っているがメインは利根川水系になっている。小河内ダムは高さ149m総貯水量は約1億9000万m³で、貯水はダム直下の多摩川第一発電所で水力発電に利用、忘れてならない水没集落1945戸、石川達三の描いた小説「日陰の村」に、又東海林太郎が歌った「湖底の故郷」が一世を風靡した。周囲45Kmの湖畔には1万本もの桜が植えられている。岬の端の高台に首都用水の守り神「小河内神社」が祀られている。

丹波川が小河内ダムの湖水口から自然の流れになり、いよいよ多摩川になる。

そしてもう一度、白丸ダム(白丸調整池ダム、昭和38(1963)年に建設された発電用ダムで御岳にある多摩川第三発電所と白丸発電所に送水し、東京都の電力源で総貯水量約89万m³に堰止められる。

白丸ダムの一大特徴・観光スポットは日本最大級の魚道(人工の魚の通路で平成13(2001)年に造られた、全長330m高低差27m、この魚道は斜面を向いている。通常は魚が上流に遡れるよう川の流れる方向に造られるが)。多摩川はその後、巨岩・奇岩がごろごろしている迫力満点の観光名所・鳩ノ巣溪谷を流れ更に多摩川八景・名水百選にも選ばれた絶景御岳溪谷を下っ

て関東平野の入口、扇の要・扇状地の広がる標高150mの青梅市になり上流は一先ず終わりとなる。

少し下った所に小泉八雲の短編小説「雪女」の舞台となった調布橋が架かっている。

多摩川は中流域の羽村市の羽村取水堰（標高120m）へ、ここは江戸時代河岸段丘を巧みに利用し開通した多摩川上水、承応2（1653）年飲料水として江戸（四谷大木戸まで約43km、高低差約92km）に供給する為に開削された堰で、最初は日野に堰を造るが流路の関東ローム層の浸透力が高く水が吸いとられる水喰い土（みずくいっち）の為、福生に変更するも岩盤が固く掘進めず再度羽村に変更され堰を、この工事で活躍した玉川兄弟の銅像が堰の近くに建っている。取水された水量



を減らして関東平野へと緩やかな流れとなり福生、拝島、昭島（約160万年前の砂岩層からクジラの化石が出土し「アキシマクジラ」と命名されている）そして多摩川八景の一つダイナミックな地層の河原（第三紀層露岩で牛群地形と呼ばれ約1200年前の貝や魚の化石が出ることも）多摩大橋付近を経て、いよいよ中流と下流を区別する調布取水所防潮堰（少し下流の丸子橋付近で2002年8月アザラシの「タマちゃん」が発見された場所）この堰は1936年満潮時などに海からの海水を防ぐと共に都民に飲料水を供給する目的で造られたが、生活排水での汚染が進み1970年からは取水停止となり1979年からは工業用水として利用されている。又特徴的な三角州に似た地形が「ニコタマ」で多摩川の支流の野川（大岡昇平の「武蔵野婦人」に野川が「はけ」と舞台となっている）は「はけの道（国分寺崖線）の段丘からの湧水を源流する川）によって造られた砂嘴（さし）で度重なる洪水で土砂が堆積し、現在は兵庫島（多摩川八景の一つ若山牧水の歌碑が建てられている）が河岸と地続きになってしまったからで、

それでも真上から見下ろせば、多摩川と野川が三角形を造っていたことがわかる。

多摩川では「海嘯（かいしょう）（潮汐作用や地震などによって海水が川へ逆流する現象で潮津波と）が発生することは考えられないが防潮堰があるように首都圏で大きな地震が予想され警戒は必要である。

2011年3月11日の東日本大震災では北上川を70kmも津波が遡上している。多摩川も最終段階の「六郷川」の右側の端に赤レンガ造りの塀が延々と続いている。これは昭和初期に当時の多摩川の流路に沿って造られた堤防（当時、多摩川は蛇行しており大雨の度に氾濫で被害をもたらし1914年に約500人が決起し神奈川県庁に押しかけた世に言う「アミガサ事件」で建設された「羽田赤煉瓦堤防」（日本近代土木遺産Aランク）で流路に沿って造られ西六郷辺りで大きく蛇行しているが当時の面影はない。



河口原点（ここが基準）から川の長さは測られる。（右岸の私有地内にある）東京湾が陸地だった頃、そこへ多摩川、荒川、江戸川などが一つの川に流れ込み集約されて「古東京川」という大きな川を形成しており、これが相模湾に注ぎ込み、海底を流れる「東京海底谷」となり、これが多摩川の最終的な姿です。

活動報告

2月11日の年次総会後の講演会「史跡・橘樹官衙遺跡」講師に川崎市教育委員会文化財課学芸員新井悟氏をお願いしました。ビデオを見ながら詳細な解説をして頂き好評でした。行事部が進めている「地元川崎を深く知ろう」の始めとして3月13日引き続き現地見学を企画して再度、新井氏に案内をして頂きました。

【影向寺】（ようごじ）

創建当時の建造物は無く、遺物も殆ど残されていない

が「関東の正倉院」とも言われる関東地方屈指の古刹である。縁起によれば創建は天平12(740)年、開基は行基とされているが、近年の発掘調査により創建は7世紀後半まで遡ることが確実とされている。



宝永7年の「影向寺縁起」は、当寺の創建について、聖武天皇の勅願により行基が建立したと伝える。

当初の影向寺は、それほど大規模な寺院ではなく、後の武蔵国橘郡郡内の在地周辺を

統治した有力豪族の私的な仏堂だったと推測される。

その後、当地の近辺に武蔵国橘郡の行政役所である群家(群衙)が設置されと見られている。影向寺もその郡寺として位置づけられたと考えられる。(おそらくは当寺を建立した有力豪族が郡司に任命されたのであろう)それに伴ってか、奈良時代には金堂が拡大整備されたことが分かっている。又この頃、現在は「影向石」と呼ばれる)塔も建設されたと推定される。いくつかの文献資料によると、影向寺は平安時代には天台宗の寺院になり、中世には深大寺との関係を深めていったと見られている。他の地方寺院と同様に庇護者を失っていたと考えられる。当寺もそのような深大寺との関係を利用して伽藍再興の勧進を行ったと見られる。15世紀(応永22年頃)には旧金堂を廃して密教本堂様式の小規模な本堂が建立された。元禄7年(1694)劣化、損傷が進んだ本堂の再建が行われた、この本堂(薬師堂)は現存していて、神奈川県的重要文化財に指定されている。

現存している「影向石」は、古代「影向寺」建立時の三重塔の礎であったと言われている。「影向石」のくぼみ(塔の心柱の臍穴または仏舎利の納められた穴が繋がったものか)にたまった水で目を洗うと眼病が治ると言われていて「江戸名所図絵」にも「稲毛薬師堂」と紹介されているそうである。(ウイキペディアより引用)

当寺の加藤住職は相当の年配者だが百木さんの説明では、かつて橘小学校を中心に活動した川崎第4団団委員長を務めていた方だそうである。現在、寺務は副住職の

息子さんがやっておられる。

[橘樹官衙遺跡群]

国史跡「橘樹官衙遺跡群」は武蔵野国橘樹郡の役所跡である千年伊勢山台遺跡「橘樹郡家跡」とその西側に隣接して造営された古代の寺院跡から構成される影向寺遺跡から構成される古代官衙遺跡である。

橘樹官衙遺跡群は、地方官衙の成立から廃絶に至るまでをたどることが出来る貴重な遺跡で、その成立の背景や構造の変化の過程が分かり、7世紀から10世紀の官衙の実態とその推移を知るうえで重要であるとして、平成27(2015)年3月10日、川崎市初の国史跡に指定された。



川崎市が整備を進めていた、橘樹歴史公園内に、飛鳥時代復元倉庫が令和6年3月完成した。柱を用いず板材を組んで屋根を支える「板校倉」(いたあぜくら)作りで、屋根は茅葺、古代の大工道具の手斧(ちょうな)・ヤリカンナを使って建てた跡が見られる。

(川崎市教育委員会) 資料

編集後記

- ・記憶に残るキャンプ・キャンプ飯について、特集しました。最近ではキャンプブームと言われていて、BSの売りの一つであるキャンプの影が薄れているように思っていて危惧していますが、如何でしょうか。
- ・タイトル写真はスイレンで白が多いため花言葉は「清純な心」でしたが、近年色が増えて白「潔白」、紫・ピンクは「信頼」と変わってきています。時代の波の影響でしょうか・・・遅れないようにしなきゃ。

(渡部)